

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100976		
法人名	医療法人ネバーランド石井内科クリニック		
事業所名	グループホーム マナの木		
所在地	岡山県岡山市東区神崎町102-1		
自己評価作成日	令和2年 9月 10 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ijyosyoCd=3390100976-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ijyosyoCd=3390100976-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は自然と緑に囲まれ、ゆつくりとした時間の流れの中でお過ごし頂けるとても良い環境に位置しています。経営母体である石井内科クリニックは同一敷地内に隣接しており、日々の健康管理や病状管理は勿論の事、急変時の対応も体制がしっかりと整っており、安心してお過ごし頂ける施設です。また、運営理念として「自分の親・自分自身が、マナの木で介護を受けたいかどうかを行動の基本とします」とあるように、職員の一人一人が理念の自覚を持ちサービスの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナ禍の中、入居者の感染リスクを鑑み外出を避け、ソーシャル・ディスタンスを取りながら穏やかな生活確保に努めている。法人内科クリニックが併設しており、安心して生活できる環境の中、入居者は落ち着いた生活を過ごしている。入居者は新型コロナで自粛を強いられ活動が制限されているが、敷地内の庭や菜園に出て花を觀賞したり、季節の野菜(サツマイモ・茄子・トマト等)を植え収穫を楽しんだりしている。スタッフは理念をよく理解し「自分が受けたい介護」に徹し、それに伴う生活上の疑問点や問題点があれば上司に相談してケアに反映させ、職員間でケアの統一を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り、ミーティング時に運営理念、グループホームの理念を代表者・スタッフ一同で唱和し、個人の理念の3本柱を基に、誰もが目に付く場所に提示し意識付けを行っています。スタッフ一丸となり実践に繋いでいます。	毎朝の申し送り時等スタッフの集まる時に皆で唱和し、意識付けを図っている。誰もが目につく場所に理念を掲示し、理念の趣旨「自分自身が受けたくなるような対応」を目指し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	最近では新型コロナウイルスの影響から、近所に散歩にも出掛けられない状況の為、敷地内から近隣の方々とご挨拶程度行っています。	新型コロナ禍の中、高齢に伴う感染リスクを懸念して近隣に出掛けられない状態ではあるが、近所の人を見かけると遠距離で挨拶をしている。町内会に入り地域の一員として生活をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内研修で定期的に認知症の研修を行い、運営推進会議を通じて内容を発信させて頂き、地域の方々にもご理解を頂けるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は集まる事が出来ない為2ヶ月に1回の開催は見送っています。封書にて、利用者状況の報告や日々の生活、行事の催しなどの写真も一緒に掲載し、地域の委員の方々や包括からも情報を載せてサービスに繋げています。	コロナ禍で感染防止の自粛要請の影響を受け、今年は2回運営推進会議を開催し、その後は中止している。入居者の様子・状況・活動は写真付きで随時報告している。地域包括支援センターからの必要な情報を受け入れサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方運営推進会議に毎回参加して頂いていましたが、今年度は開催が中止の為、封書にて定期的にサービスの内容を記載し、今後も協力関係作りを行っていきます。	行政へは入居者の活動報告・入居情報等の報告をし、協力関係の継続に努めている。自粛等の行政の指示に従い感染予防に徹している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象になる具体的な行為について、何度も勉強会や委員会で話し合いを行い、徹底的に排除しています。その他にも「ちょっと待ってて…」などの言葉に於ける拘束についても気を付けるように心掛けています。	勉強会やケア会議で拘束に関する話し合いをし、理解を深めている。ケアの中で「ちょっと待って」などの言葉を使わないよう注意している。訴えを聞く等、入居者の思いを知り、満足のいく対応に努め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修や委員会で、何が虐待にあたるか、虐待に繋がる可能性があるのは何かを考え、意見を出し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に成年後見人制度の概要について施設内研修を行っています。日常生活自立支援事業についても説明をしながら、職員全員で質疑応答し、知識を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は、内容を読み上げ、項目ごとに利用者やご家族の理解の確認と質問の有無をお聞きし、同意を頂きながら進行するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置し、いつでも要望を承れるようにしています。コロナの影響で、最近では面会の時間も短縮されている中出来る限り話し掛け、言葉を掛けやすい雰囲気作りと意見を頂くように努めています。相談記録を活用し繋げています。	入居時や重要事項を説明する際、意見を聞く機会を設けている。行事毎の活動写真を便りに載せ、利用者が楽しそうに生活している様子を知らせ、家族に安心してもらえよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度代表者同席の元、管理者とリーダーを中心に会議を行い意見交換の場を持っています。その他には、朝の申し送り時やその時に不在のスタッフには、申し送り簿を活用して統一したケアが行えるように努めています。	月1度のケア会議にて意見交換をし、ケアに活かしている。外部研修に参加して研修内容をまとめ、事業所にフィードバックしてサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況は、管理者やリーダーを通じて代表者に随時報告し、功績に応じて給与等に反映しています。また、代表者との面接の機会を持ち、日頃感じている事や困っていることを聞きながらメンタル面でのサポートもしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容を検討しながら、適切な研修をスタッフに必ず一回以上への参加を促しています。また施設内において職員が月に一度、介護実技や研修を行いスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防を行いながら、外部の研修に積極的に参加する事で情報交換やネットワーク作りを行うよう努めています。研修後は、内容をまとめてミーティングで発表し、サービス向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境が変わるといふ大きな不安が生じやすい入居時点から、思いを表出し安心して過ごして頂けるよう信頼関係の構築に努めています。また、その思いに寄り添ったサービスが提供できるように、一人ひとりの意思や尊厳、人生観を尊重した支援を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入居にあたり、利用者様のキーパーソンでもある御家族の意見をお聞きします。御家族が感じられている不安や希望を尊重した介護が行えるように意見交換を行います。また、今後どのようなサービスの展開が必要になるか把握できるように、御家族とも協力関係を築けるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や御家族の価値観や意向を踏まえたアセスメントを行い、特に重要だと考えられる点から介入を行います。その後、全人的側面からサポートできるように繰り返しアセスメントを行います。また、必要に応じて医療スタッフなどの多職種との連携を図り、より質の高いサービス提供へと繋げられるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ADL、QOLを保った生活を支援できるようにエンパワメントや強みに視点を置き、残存機能を生かした関わりを行います。職員は共に過ごしていく中で日々の変化を汲み取り、本人の意向や体調を確認しながら、ADL、IADLなどの日常的な動作・家事の実践に共に取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が面会に来られた際や電話での対応時に、日々の変化や様子をお伝えします。御家族の思いを傾聴することはもちろんのこと、本人が職員には表出しきれない不安や悩みはないか、御家族から協力してもらい把握できるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常になりつつある施設での生活の中でも、QOLを保った生活を送って頂けるよう、できる限り本人の意思や希望に寄り添った外出支援を行っています。	新型コロナ禍の中、感染リスクを考慮し家族の面会は外庭から窓越しに行い、関係を維持する工夫をしている。墓参りや地域に出かけるなどはできていない。	新型コロナの終息がまだ見えない中、ドライブでの外出を計画している。入居者の希望を捉え馴染みの場への外出支援に期待を寄せる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内で共に過ごす時間が長いからこそ築かれる利用者様同士の交友関係に考慮した支援を行います。食事やレクリエーションの際には席の位置に配慮したり、時には職員が会話に入ったりするなど利用者様同士で円滑な会話が行えるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所や入院施設に移られたり、何らかの理由で契約が終了したとしても、その後も継続的に状況を把握し、相談があった時はいつでも対応できるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつもと異なる思いや希望などを話された時には、個人記録や申し送り時に伝達しています。利用者の表情や様子など変化が見られた場合はスタッフ間で話し合い、ケアマネに報告しています。	入居者の現在できる事できない事を汲み取ったり、以前の生活の情報を収集したりして、意向を把握している。入居生活が穏やかでスムーズになるよう、感情面・情緒面の安定を図る介護計画を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話の中で馴染みのことや、どのような生活をされていたかを伺いながら、情報収集を行ったり、ご家族や面会された方などのお話を参考にサービスに繋げるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の様子や状態を申し送り時に伝達しています。問題点があればケアマネに報告し、スタッフ会議などで話し合いをしています。早急な場合は連絡ノートに必要な情報を書き込み、情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族様の望まれている事をお伺いした上で、できる事・できない事について把握し、モニタリングの中で何が 필요한のか、どうすれば実現できるのかをスタッフで話し合いながら作成するようにしています。	2か月に1回モニタリングを行い、介護計画の進捗状況を確認している。家族の要望と本人にとって必要でサポートできる点をスタッフと話し合い、介護計画の見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にあるケア申し送り書に沿ってケアを行い、記録に残しています。変化がある時には、スタッフで情報交換し、必要に応じて介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染予防を重視しています。利用者様に感染させないを前提に、家族との面会制限を行い、近況は電話連絡など行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は地域行事に参加したり生まれ育った場所に出掛けていましたが最近では外出も自粛しています。新型コロナウイルスが終息したら、買い物、ドライブ、望まれた場所に出掛けたいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医の確認を行い、かかりつけ医がある場合には医療との連携を取り、情報の共有に努めながら利用者様に安心して医療を受けて頂けるように配慮しています。	入所時にかかりつけ医の確認をしている。法人医師の24時間対応と定期的な往診があり、安心して生活できるよう支援している。近隣の歯科医の往診がある。週2回、看護師によるバイタルチェックにて健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にその日の利用者様の状態を報告し、必要に応じて受診や処置の対応を行うようにしています。また、異常を感じた時は隣接のクリニックと連携を取り、早期の対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時には適切な情報提供を行い、医療機関と事業所が協働出来るように努めています。ソーシャルワーカーや医療関係者との連携を取りながら情報を共有し、早期の退院の受け入れが出来るように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新規立ち上げから看取り介護を実施しています。御家族、医師、看護師、管理者、ケアマネ、介護、協働で看取り介護計画を作成し、変化に応じて御家族や医療との連絡調整を取ります。エンゼルケアも実施し、尊厳ある看取りに努めています。	看取り介護を実施する事業所として立ち上げをしている。家族や本人の要望を汲み取りながら、本人の尊厳を守りつつ、看取りをして終の棲家として支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	それぞれの利用者様に起こりえる急変時の対処方法については、主治医から情報をもらい、その都度、職員に伝達するようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間、昼間を想定した避難訓練を年二回実施しています。また、近隣地域協力者を交えた災害時等緊急連絡網を作成し体制を整えています。避難用具・備蓄品も用意し賞味期限なども確認しています。	新型コロナ禍の中、外部との面会は中止しているが、避難訓練は実施している。ハザードマップにて災害の有無を確認し、水害対策等は万全を期している。1年分の備蓄品や避難用具の確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己選択ができる言葉掛けを心掛けています。想いが言葉に出にくい方には、表情や行動に注意しながら、その方が何を訴えたいかを考えながら支援しています。	本人に要望を聞いたり、言葉かけをしたりして自己選択できるよう支援している。プライバシーを尊重し、各居室の扉は開けた状態にならないよう配慮をしている。着替えの服を自分で選択できるよう声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間に沿ってサービスは提供していますが、その時に要望を伺いながら実施するようにしています。また三密を避けながら希望に添えるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の思いに寄り添い、傾聴し、自己決定して頂けるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は利用者と一緒に買い物に出掛け、好みの洋服を買いに行っていました。コロナ感染予防の為外出を控えています。入浴時にはお好きな洋服を選んで頂いています。毎日同じ洋服を着られている利用者様には声掛けをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月献立が決まっています。毎月1回お楽しみメニューがあり、好みの食事を提供しています。朝食にパン食希望の利用者には毎回パン食を提供しています。コロナ感染予防の為、食事担当者が食事作り、後片付けを行っています。	月1回、お楽しみ食や行事食を設け、入居者の希望を取り入れるよう努めている。敷地内にある庭に季節の野菜を植え、トマト、ナス、サツマイモ等を収穫し、食材として食卓に上がっている。ホットケーキ等おやつ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務記録一覧表で個々の食事量、水分量を把握しています。食事量が減ったり、体重減少の方には栄養補助食品をおやつ時に提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに口腔ケアの声掛けを毎食後行っています。見守りや介助が必要な方には支援をしています。夜間に義歯洗浄を行っています。歯ブラシは月1回交換し清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期に声掛けを行い、トイレやポータブルトイレでの排泄を促しています。自立支援を促すが本人の依存心が強く、パット内に排泄されている方がいて、その方への対応を考えています。	現在、布パンツ使用者は1人だが、声掛けに気遣いながら自立支援に努めている。定時に声掛けをして失敗のないよう支援している。使用したパットの始末はトイレに流さないよう自尊心に考慮しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひとりひとりに応じた飲食物を提供しています。多種類の飲み物を用意しており、水分摂取を促しています。体操や廊下を歩くなど体を動かして頂いています。排便チェックを行っており、必要に応じて主治医に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているが体調や希望により入浴日や時間帯を変更しています。御自分で洋服を選んで頂いています。利用者のペースを尊重し、身体状況に合わせた支援をしています。	週2～3回の入浴。物取られ妄想がある入居者には声掛けを工夫して服を確認してもらい入浴している。入浴時間は個々の好みに合わせた支援をしている。下肢の腫れ、血流障害がみられる時は足浴もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて休息して頂いています。表情や様子に注意しながら安心して過ごして頂けるよう支援しています。室温や換気にも気を付けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時や急変時など服薬されている薬に変更があれば、連絡ノートや処方箋綴りで確認しています。症状に変化がみられる場合は主治医に相談しています。誤薬がないよう服薬前にはダブルチェックを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯物畳み、新聞折りや広告折りを手伝って頂いています。月に一度はお楽しみメニューを企画しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ感染予防の為、利用者の外出は控えています。気候の良い日には時々庭でおやつを食べて気分転換を図っています。	新型コロナ禍の中、感染予防を考慮して外出は6か月余り中止しているが、今後、機会を捉えてドライブの外出を予定している。時期を考慮しながら庭の草取りや育てた野菜の収穫を楽しむなど、外気浴や気分転換が図れるよう努めている。	ドライブでの外出を計画している。車中から戸外の雰囲気を感じてもらい、楽しめることを期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人ご家族と相談し、少額に限り自己管理して頂いています。買い物のご希望があれば一緒に行き、商品を選んで頂いていましたが、最近ではコロナの影響で思うように外出が出来ないので、こちらで必要な物を伺い、購入させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとの希望があった時は、かけて頂きます。手紙が届いた時はお渡しし、返事を書きたいと希望があれば書いて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には季節ごとに、ご利用者様と作成した壁画や行事ごとの写真を提示し、季節感を感じて頂いています。また季節ごとの生花も玄関ホールに飾ります。感染予防にも配慮し、除菌空気洗浄器を常時活用し、ご利用者様職員共に健康に過ごしています。	リビングから窓越しに中庭が見渡せ、四季折々の風情を感じる。季節感を取り入れるため、アクティビティで作った作品を飾っている。庭の花や野菜作りは本人の経験が活かせる楽しみの作業となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされている時は、会話や表情に気を付けて席を配慮するようにしています。また、リビングから出られる庭には大きな縁台を設置し、外気浴を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際には、出来るだけ購入した物ではなく、使い慣れた物を持参して頂ける様お願いしています。家具の位置はご本人の希望を伺いながら、危険のないように設置しています。	本人の部屋に使い慣れた物を持ち込んでもらい、居心地よく過ごしてもらえよう工夫している。部屋の中は整然とし、床はかたづけられ、安全な移動確保に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内をご自身で杖やシルバーカー等を使用し見守りで移動される場合も、スムーズに走行できるように動線を考えて、机や椅子の位置に配慮しています。また掃除、草取り、洗濯物などできる限りお手伝いもお願いしています。		